

「伝統ある養蚕業を守る」

瀧本 慎吾 (26 歳) Uターン
(大洲市)



1 就農の動機・理由

明治20年代頃から代々養蚕をしており、3年前の西日本豪雨で当時、祖父が1人で飼育していた蚕が全滅する被害に遭い、落ち込んでいる祖父の様子を見て、何か自分にできることはないかと考え始めたのがきっかけだった。最初は反対されるかもしれないと思いながら、「就農したい」と祖父に相談した時、祖父から「やってみたらいい」と言ってもらい、就農する決心がつき、5年間勤めていた会社を退職し就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和元年)	現在の経営 (令和4年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	男2人(本人、祖父)	男2人(本人、祖父)	男2人(本人、祖父) 女1人(母)
経営耕地	桑園 140a 水田 150a	桑園 140a 水田 150a 畑 5a	桑園 200a 水田 150a 畑 10a
経営内容	水稲 150a 繭 1,000kg	水稲 150a ばれいしょ 5a 繭 1,300kg	水稲 150a ばれいしょ 10a 繭 1,500kg

○農業用施設

蚕舎 2棟

○主要農業機械

軽トラック 2台
小型トラック 1台
トラクター 2台
田植え機 1台
コンバイン 1台
運搬車 3台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県八幡浜市
職歴 会社勤務(電気関係)
就農研修歴
蚕業技術研究所(茨城県)
(R元.9.3~R元10.3)
就農年月 令和2年4月

(2) 就農時の思い

小さい頃から、祖父母が養蚕をしている姿を見ていたが、ほとんど何も分からない状態からのスタートだったのでとても不安であった。しかし、祖父に教わりながら、養蚕の魅力に気づくことができたことで、伝統ある養蚕業を守っていきたいという思いが強くなった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

祖父から、蚕の飼育法や桑園の管理などについての技術を教えてもらっている。養蚕農家が、市内には2戸と少なく、新しい飼養技術の習得のために、

JA から紹介していただいた茨城県での現場研修に参加した。

(2) 資金の準備

就農後は、農業次世代人材投資事業（経営開始型）を受給している。

(3) 農地・住宅の確保

祖父からの継承で確保した。

(4) その他苦労したこと

養蚕農家自体全国的に少なく、また養蚕に詳しい人が周りにいないので、情報収集や技術習得に苦労した。幸いなことに身近にいる祖父から教えてもらうことができ、知識などを吸収することができた。ある程度分かってくると、祖父に意見・提案することも増えていき、それでも分からなかったことは、自分で調べたり、全国の若手養蚕農家とリモートで意見交換をしたりして、情報を収集した。

5 農業経営の特徴

養蚕の時期が、5月から10月までと限られており、この期間で4回の飼育・出荷を行っている。出荷してから次の蚕期まで約2週間から3週間ほどのインターバルがあり、その期間を利用して田植えをしたり、ジャガイモを栽培したりしている。将来的には、シルクを使った商品の販売も考えており、ネット販売なども視野に入れ、販路を拡大していきたいと考えている。

6 これからの夢

現在、全国的に養蚕農家の高齢化や後継者不足で、伝統ある養蚕業が衰退している。養蚕の魅力をより多くの人に、特に若い世代の人に知ってもらえるよう、養蚕農家として繭を生産するのはもちろん、

SNS 等を活用してPR活動にも尽力していきたいと思っている。

7 成功したキーポイント

一からのスタートであったが、貴重な養蚕農家の1人である祖父から知識や技術を継承でき、また、全国各地の若手養蚕農家との繋がりができたことが大きかった。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農家は、作物を育て出荷すること以外にも加工品にして販売したり、情報の共有・発信をしたりと、いろいろなことにチャレンジできるおもしろい仕事です。農業経営や天候に左右されるなど、農家ならではの難しさや苦労はありますが、農家になって何をしたいかビジョンを明確にしておくと思いいます。

○ 指導機関からのひとこと

瀧本さんは、県内でも数少ない養蚕に取り組まれており、シルクを使った加工品開発にかかわるなど新たなチャレンジをされています。養蚕の魅力について情報を発信し、伝統ある養蚕業に新しい風をふかせてください。

執筆機関

南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室
大洲農業指導班

電話番号 0893-24-4125



蚕への餌やり作業